校長室の窓から ～夢の扉　第37号～徳島編

Ｒ２．１．８（水）

新しい年が始まりました。

文責　学校長

～2020年東京オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けです～

１　道の駅「風のふるさと館」で厳木高校産の野菜（白菜）を販売しました。

１２月２２日（日）に本校生徒が**「体験学習基礎」の授業で育てた野菜（白菜）**を**道の駅厳木「風のふるさと館」**で販売しました。また、餅つきにも助っ人参加し、丸餅にする作業も手伝いました。野球部の諸君の餅つきも２年目となると見事なつきっぷりでした。参加協力してくれた**アーチェリー部・野球部・女子バスケットボール部・１年生有志の生徒**諸君並びに**顧問の先生方**朝早くからご協力ありがとうございました。

２　今日の一言・・・蔦文也と瀬戸内寂聴（徳島県出身）の言葉です。

○３年生はほんまに３年間、本当にご苦労でございました。甲子園に出た者も控えになった者も、昭和６２年の甲子園に出た者は、最後まで友情を持ち続けるようにせなあかん。また特に先生良く言うておくが、野球で必ずレギュラーになったエリートが必ずしも人生のエリートにはなるとは思わん。野球の控えは人生の控えではないと言う事を先生も良く言いよることじゃ。

【解説】「山間の町の子供達に一度でいいから、大海（甲子園）をみせてやりたかったんじゃ。」という有名なフレーズを残し、甲子園に「**池田高校旋風**」を巻き起こした名物監督・蔦文也氏が３年生の最後の夏の大会後に語っていたメッセージです。高校野球にいち早く筋力トレーニングを取り入れ、パワー溢れる打撃力で相手ピッチャーを圧倒し、徳島の山間の公立高校を強豪校に育て上げた手腕は今でも語り草になっています。特に１９８２年夏の甲子園大会では、準々決勝で**早稲田実業**の**荒木大輔**投手（アイドル的人気を誇っていた選手）をめった打ちし、１４対２で大勝、決勝の**広島商業**にも１２対２で大勝した試合は、まさに**高校野球の常識を根底から覆した**瞬間でした。

【蔦文也について】徳島県立池田高等学校野球部元監督。「**攻めダルマ**」の異名を持ち、「**さわやかイレブン**」「**やまびこ打線**」として知られる池田高校野球部を４０年間指導。選抜高等学校野球大会、全国高等学校野球選手権大会において、優勝３回（夏春連覇１回）、準優勝２回の実績をあげた。池田町名誉町民第１号。　　（参考：「Wikipedia」より）

○小説を書くことは私にとって快楽なのです。この快楽を手放したくないという欲望が、私にはあります。煩悩は捨てなくてはなりませんが、私はいい小説を書きたいという煩悩だけは、いまも捨て去ることができません。死ぬまで煩悩を抱えて生きるのが、人間というものです。煩悩を完全になくせばブッダ（悟った人）ですが、世の中はブッダばかりになってしまったら、ちょっと困るでしょう。だから私は、そんなに立派なお坊さんではないのです。

【解説】様々な恋愛遍歴の果てに出家し、尼僧となりながらも多くの小説を発表し続け、数々の文学賞を受賞し続けている瀬戸内寂聴さんのそのお人柄と小説執筆にかける思いが窺える言葉です。

【瀬戸内寂聴について】日本の小説家、天台宗の尼僧。俗名晴美。京都府在住。１９９７年文化功労者、２００６年文化勲章。徳島県立高等女学校（現：徳島県立城東高等学校）、東京女子大学国語専攻部卒業。比叡山延暦寺禅光坊住職。元敦賀短期大学学長。徳島市・京都市名誉市民。代表作には『**夏の終り**』や『**花に問え**』など多数。『源氏物語』に関連する著作も多い。これまで新潮同人雑誌賞を皮切りに、女流文学賞、谷崎潤一郎賞などを受賞している。

3　今日の一冊・・・今回の一冊は、**徳島県出身**の**河野裕**の**『いなくなれ、群青』**です。

11月19日午前6時42分、僕は彼女に再会した。誰よりも真っ直ぐで、正しく、凛々しい少女、真辺由宇。あるはずのない出会いは、安定していた僕の高校生活を一変させる。奇妙な島。連続落書き事件。そこに秘められた謎…。僕はどうして、ここにいるのか。彼女はなぜ、ここに来たのか。やがて明かされる真相は、僕らの青春に残酷な現実を突きつける。「階段島」シリーズ、開幕。（「BOOK」データベースより）

【解説】横浜流星・飯豊まりえ出演で映画化された同名映画の原作本です。「**階段島**」という奇妙な島を舞台に、少年・少女が自身の成長とともに失くしたものはものは何かを見つめていく・探し出していく小説です。「階段島」、そこは世間や家族に捨てられた人々が住むと言われている島。そこに捨てられ（？）てきた主人公の**七草**がその島にいるはずのない少女・**真辺由宇**との再会でドラマは大きく動き出します。２人にとって失くしたものとは？

【作者・河野裕について】１９８４（昭和５９）年、徳島県生れ。兵庫県在住。グループ SNE 所属。２００９（平成２１）年、『サクラダリセット CAT, GHOST and REVOLUTION SUNDAY』でデビュー。２０１５年、**『いなくなれ、群青』**で大学読書人大賞を受賞。同作から始まる**「階段島」シリーズ**は２０１９（令和元）年**『きみの世界に、青が鳴る』**で完結した。著書に『つれづれ、北野坂探偵舎』『最良の嘘の最後のひと言』「架見崎」シリーズとして**『さよならの言い方なんて知らない。』**などがある。（参考：「新潮社」著者プロフィールより）

4　日本全県味めぐり…第37回は徳島県です。

徳島県のグルメと言えば、「**たらいうどん**」「**ひらら焼き**」「**阿波尾鶏**」「**祖谷そば（そばきり）**」を挙げたい。まず「**たらいうどん**」。この辺りでは、冠婚葬祭など人が集まる時に大きな飯盆にうどんを入れ、みんなでそれを食べる風習が出来てきたそうです。この地方を訪れた人によって「たらいのような器にはいったうどんを食べてうまかった」という話が伝えられていつしか「**たらいうどん**」と称されるようになったといわれます。次に、「**ひらら焼き**」ひららとは、平らな石のことを指し、この石をくど（かまど）で焼いてからホットプレートのように使用します。この料理は、来客などへの接待料理として、また、親族や友人が集まったときの団らんの料理として受け継がれています。そして、「**阿波尾鶏**」恵まれた自然の中で丁寧に育てられた徳島のブランド鶏。徳島で有名な阿波踊りにちなんで名付けられた阿波尾鶏は、徳島県で開発、飼育された高級地鶏です。恵まれた自然とゆったりとした環境の中で、丁寧に飼育されています。肉質を良くし、脂肪の付着を防ぐ飼料で育てられているため、低脂肪で適度な歯ごたえがあり、甘みとコクがあるのが特徴です。最後に、「**祖谷そば（そばきり）**」。秘境の祖谷でつくられたそばを使った手打ちそば。そば粉１００％でつなぎは一切つかわない。そのため、そばが切れやすく、麺が太くて短いのが特徴。祝い事の際には必ずそばが出される土地ですが、麺が切れやすいため、「縁が切れる」として、婚礼の時だけは、そばを振る舞うことはしません。口に入れると、そばの香りが広がり、素朴な味わいを楽しめます。（参考：「郷土料理ものがたり」より）

【芋なっとう】鳴門海峡の砂地で栽培される鳴門金時は、温暖で降雨量が少ない気候とミネラルをたっぷりと含んだ海砂により、驚くほどの甘みと食感を生み出します。その質の高い鳴門金時を蒸して軽く干したものに、徳島県産のやさしいお砂糖である和三盆をたっぷりとまぶしたものが芋なっとうです。心地より甘さが口の中いっぱいに広がります。

【金長まんじゅう】金長まんじゅうは、１９３７年に当時小松島市にあったハレルヤ製菓株式会社が製造を始めたお饅頭です。日本で初めて皮にチョコレートを使っています。金長まんじゅうの「金長」は、地元に伝わる民話の阿波狸合戦の狸の名前が由来です。チョコレート風味のお饅頭は、和と洋をミックスさせた味わいで、幅広い年代の方に人気があるお菓子です。

5　保護者の皆様へ・・・オンラインゲームでの「課金トラブル」に注意を。

お子様のオンラインゲームの利用において、高額な請求が発生する「課金トラブル」が増えています。特にお正月を迎えてお年玉等で思いがけないお金を手に入れ、はじめは無料と思っていても夢中になってつい課金したり、有料アイテムを購入したりして、後々高額な請求書が届いたり、またゲームのサイトへの登録の際に成年と偽り親のクレジットカード情報で登録したために後々高額な請求書が届いたりという事案が県内でも発生しています。お宅のご家庭は大丈夫でしょうか。困ったことがある場合は、今すぐに「**消費者ホットライン（局番なし188番）**」へご連絡を。